



## ★筑波大学付属桐が丘特別支援学校道徳科遠隔合同授業 3/12（水）

筑波大学付属桐が丘特別支援学校中学部 1 年生（全員が車いすを利用し学校生活を送る生徒です）と本校 1 年生の遠隔合同授業が行われました。今回は道徳科での遠隔合同授業です。授業のテーマは「公平・不公平」でした。「コンサート会場で順番待ちの長い列ができているとき、車いすの人が列に並ばずに会場には入れるのは公平か？」などの身近にある場面について意見を発表し合いました。意見をまとめる授業ではなく、自分の意見を発表し、人の意見を聞き、話し合いを通して自分の考えを深める授業です。普段できないこれらの活動が本校生徒には必要であると考えています。生徒数が少ないゆえの課題を、ICT 活用によって克服していくのです。それが**多様な他者と協働する力**を育むことにつながると考えています。



## ★1 年を振り返って

「私が赴任したのは日本一美しい木造の中学校です！バックに雄大な山があってほんとに素敵なんですよ・・・、しかし箱だけ良くてダメですね。素敵な外観に負けない教育を実践したいと思います！」私が三重県教頭会 500 名あまりを前に発した言葉です。気がつけば卒業式も終わり、1 年が終わろうとしています。

学校は校長が教育ビジョンを示します。それを実践してくださるのが先生方です。振り返れば、先生方はいつも子どもたち一人ひとりに寄り添い、丁寧に指導してくださいました。職員室ではいつも子ども一人ひとりについて、密に情報共有がなされ「〇〇さんはこんな様子だった」「こんなことができる」「こんなことができない」生徒一人ひとりの学習面やメンタル面をみんなで情報共有し、学校全体で一人の子どもをサポートする体制がいつも自然に作られてきたと思います。

極小規模校である本校の強みは、何と言っても「一人ひとりを大切にする教育」が実践できることです。しかし単に生徒数が少ないから実践できるのではなく、先生方に熱意や優しさがあるからこそ実践できる教育であると感じています。

一方で「生徒が少なすぎる」ことからくる様々な課題があります。人間関係、勉強、運動、行事など、たくさんの場面でみんなが実感しています。しかし「どうしようもない」とあきらめ、何もしなければ何も変わりません。子どもたちに**未来を切り拓く力を育むため**、素敵な外観に負けない充実した教育が実践できるように、この**課題としっかり向き合い、工夫した教育を継続して実践する**必要があると考えています。

最後になりましたが、保護者の皆様、地域の皆様、運営協議会の皆様、至らぬ学校運営にもかかわらず、常に本校教育活動に温かいご支援ご協力を賜りましたこと、略儀ながら書中にてお礼申し上げます。